

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

2003年度自己点検・評価項目に設定した目標のうち5で掲げた「日本におけるキリスト教平和学の情報発信センターの構築」のために、グローバルな視点で「平和」を考えることが出来るようテーマを設定し、2007年度だけでも3回のRCCフォーラムを開催した。また、「聖典と今日の課題」・「聖餐の理論と実践」の2つのプロジェクト活動による研究会8回と講演会を3回開催した。

次に、自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」では、項目に設定した理念目的に沿った具体的な目標について様々な取り組みをおこなった。2007年度で4年間にわたって、総合コースで提供してきた講座「暴力とキリスト教」を終了した。なお、2006年度秋学期から開講した「現代における《愛》の可能性-キリスト教の視点から-」は、2009年度まで総合コースで提供する予定。

「改善の具体的方策」の中で、2.の参加者の拡充を図るために、リーフレットの作成・配布の他に、今年度はRCCのホームページを充実し、ホームページ上にフォーラム、ミニフォーラム、講演会、研究会の開催予告をおこなった。

3.の海外の研究者の招聘、交流を積極的に図ることについて、今年度、前日本キリスト教協議会総幹事、現在、本学商学部教授・宗教主事の山本俊正氏を研究員に加え、海外研究者の招聘交流の橋渡しの役割を果たしてもらった。また、チュニジア共和国からの本学総合政策研究科研究員オムリ・ブージッド氏を招きRCCフォーラムの講師を務めていただき、本研究センター研究員にもなっていただいた。

4.の地域社会への情報発信、ニュースの提供として、2007年度は『RCCニューズレター』12号、13号を発行したり、図書として『関西学院キリスト教と文化研究』第9号(通巻第11号)を刊行した。

次に、これらフォーラムやミニフォーラム、研究会の成果を基に、平和学構築の研究に関し『キリスト教平和学事典』の出版および販売に関する覚書を出版社と交わし、編集作業を継続した。2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」の5にある財政的基盤の確立についても、大学の良き理解のもと、出版に関する財政的支援を得る見通しができたため、この事業を進めている。この出版事業は、本研究センターの一つの目標であるキリスト教と文化一般の総合分析と研究の成果として、また現代社会が直面するグローバル世界の諸問題の探求としての成果を期待したものである。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

キリスト教の学際研究機関というRCCの設立目標は、進捗状況報告に記したように、各種研究会の設立、フォーラムの開催、出版事業の成果等によって、学内外に高い評価と認知を得、その意味では目標の達成度は高い。しかしフォーラムの講演内容の選定や公開方法に問題点もあり（主題の偏り、会場と聴衆確保の困難など）これを解決して整備する。

学内第三者評価

昨年に引き続き、理念・目的に添って広く社会に関わる問題に取り組み、さまざまな施策を実施していると認められる。

ただし、記載内容は事実の列挙にとどまっており、自己点検・評価活動の趣旨からすると十分とはいえない。自身が掲げた目標に向けた活動を行っているのか、活動により掲げた目標がどの程度達成されているのか、活動により浮き彫りになった問題点があるのか、といったことを率直に見直し、Plan-Do-Check-Actionのサイクルをまわしていくことが求められる。